

時と思い出を刻む made in AZUMINO を世界に

安曇野で幼き夢をかなえた
時計職人

おか としあき
岡 利謙 さん (豊科)

洗練されたデザインと正確に時を刻むオリジナル機械式腕時計を製造する(株)南安精工で時計職人として時計と向き合う岡さん。幼き時に思い描いた「時計職人になりたい」という夢を実現した経緯と腕時計に対する思いを聞きました。

のどこかで幼い時に感じた時計職人になる夢がくすぶっているのを感じ、28歳のときに夢の原点である諏訪の時工房を再び訪れることにしました。幼き日の思いをなぞるように、今度は腕時計づくり上級に挑戦し、夢中で組み立てました。その時、時計職人になりたいという、夢の秒針が再び動き始めたように思います。

していると、時計の奥深い世界に日々魅了され続けています。自分にとって時計は、時を知らせるだけの道具でなく、思い出を共有する大切なもう一人の自分だと思っています。いつか自らがデザインした腕時計を作れたらという新たな夢を持ちながら、今後も時計に向き合っていきたいと思っています。

MEMO
○(株)南安精工が手掛けるオリジナルウォッチブランド「Azusai」(上記写真参照)。
ブランド名は、梓川のように多くの方に親しまれ、信州を代表する時計となるように、そんな願いが込められています。

小学校5年生の時に両親と一緒に訪れた諏訪で時計との運命的な出会いをしました。そこは腕時計づくりを体験できる工房で、初級から上級まで難易度が設定されていました。生まれて初めての本格的なモノづくりだったこともあり、初級を選択。初めて見る腕時計の内部は、1秒1秒正確に時を刻む未知の世界。その繊細な技術に一瞬で心を奪われました。完成した時計を見ながら「もう一度ここで次は上級の腕時計を組み立て、いつか時計職人になりたい」と夢を描いたのを覚えています。

29歳で勤めていた会社を辞め、時計の専門学校に入学、4年間にわたり時計の専門的な技術を学びました。専門学校に通う同級生の多くが時計を修理する企業や販売する企業に就職するなか、自分は時計製造に携われる就職先を探しました。そのとき、たまたま目にとまった「時計職人募集」の求人。「ここだ！」と直感し、応募したのが現在の勤務先(株)南安精工です。幼い頃からの念願だった時計職人として、やりがいを持って働いています。

腕時計はもう一人の自分
自分の仕事は、時計製造と修理が主な仕事です。取り扱う腕時計は、値段が何千円のものもあれば何百万円もするものまでさまざまです。値段は違えど、時計を大切に思う持ち主の気持ちに寄り添い、一つ一つ心を込めて丁寧に手掛けています。夢だった時計職人として、時計と向き合っ

神奈川出身。都内でシステムエンジニアとして勤務したのち、29歳の時に幼い時からの夢だった時計職人になるため一念発起し、時計の専門学校に入学。4年間時計に関するノウハウを学び、念願だった時計職人として、(株)南安精工で勤務。



たが、働くなか心が流れて、大学を卒業後、都内でシステムエンジニアの職に就きましたが、働くなか心

時が流れて、大学を卒業後、都内でシステムエンジニアの職に就きましたが、働くなか心



時計屋復刻堂
Instagram

流れに乗って！ サップを体験

9月3日 サップ親子体験会



身近にリバースポーツを楽しむ機会を増やそうと親子サップ体験会が開かれ、親子3組が前川の流れを体験しました。初めにカヌースラローム日本代表の安藤太郎さんから安全にサップを楽しむ方法を教わった参加者は龍門湖公園の池で練習を行った後、実際に前川でサップ体験を行いました。すぐにパドルさばきのコツをつかんだ参加者は、自由に川の水と親しんでいました。春來さん(9)と親子で参加した加藤毅さん(40・穂高)は、「新しいことにチャレンジする息子の姿が見られてうれしかった。普段使わない筋肉を使って自然の中で遊ぶのは楽しい」と話してくれました。

夜空に咲く大輪 再会の夏

8月14日 第16回安曇野花火



安曇野の夏の夜空を彩る第16回安曇野花火が明科御宝田遊水池で開かれました。令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響で分散開催や縮小開催が続き、4年ぶりの通常開催となりました。今年のテーマは「Resume! (再会)、安曇野」。全国から訪れた約2万人の観客が、打ち上げられた約4200発の花火に歓声をあげていました。

実行委員長の宮下雅士さん(50・明科東川手)は、「地域の皆さんの支えのおかげで開催できた。4年ぶりの再開を新たなスタートにしたい」とあいさつしました。

人とヒト 人とモノ 人と場所がつながる空間

9月2日・3日 And Place5th

クラフトマーケット&ピクニック And Place 5th(実行委員会主催)が豊科南部総合公園で開かれました。会場には県内外からクラフトや特産、飲食など過去最大規模となる130店舗が出店。スポーツ教室やキッズスペースなども設けられており、来場者は店舗を巡ったり、芝生でくつろぐいだりと思いいに過ごしていました。2日は午後8時までナイトマーケットが開かれ、フィナーレには約100個のスカイランタンが夜空に浮かび、会場は夕焼けとランタンの幻想的な雰囲気にも包まれていました。家族で訪れていた南竹麿さん(三郷温)は、「芝生で子どもと一緒に1日のんびりできて良い空間です」と話してくれました。

